

2009年度

総合優勝 Dチーム 14勝 9敗1分

(ジュニアDチーム9勝3敗0分 シニアDチーム5勝6敗1分)

※2009年度はジュニア、シニアを兄弟チームとし、成績を合算して順位を争いました。

ジュニアリーグ 第12戦まで (全日程終了) *引分試合は、0.5勝、0.5敗で勝率計算

順	チーム	D	C	B	A	勝	負	分	勝率	得点	失点	打率	防御率
1	D	***	○○●○	○○●○	○○○●	9	3	0	0.750	78	33	.268	1.90
2	C	●●○●	***	●○○●	○○●●	6	5	1	0.542	59	58	.188	2.61
3	B	●●○●	△●○●	***	○△○△	4	5	3	0.458	37	59	.197	2.50
4	A	●●●○	●●●○	●△●△	***	2	8	2	0.250	38	62	.200	4.16

シニアリーグ 第12戦まで (全日程終了) *引分試合は、0.5勝、0.5敗で勝率計算

順	チーム	C	A	B	D	勝	負	分	勝率	得点	失点	打率	防御率
1	C	***	●○●○	●△○●	○○●○	6	5	1	0.542	86	65	.304	3.27
2	A	○●○●	***	●○○●	○○●●	6	6	0	0.500	72	64	.299	4.22
3	B	○△●○	○●●○	***	●●△○	5	5	2	0.500	67	80	.263	4.45
4	D	●●○●	●●○○	○○△●	***	5	6	1	0.458	63	79	.267	4.12

総合勝敗表 第12戦まで (全日程終了) *引分試合は、0.5勝、0.5敗で勝率計算

順位	球団	勝	負	分	勝率
1	D	14	9	0	0.604
2	C	12	10	0	0.542
3	B	9	10	0	0.479
4	A	8	14	0	0.376

ジュニアDチームメンバー

監督 田村 陽平 主将 関 敬一

野内 直己 金田 不二雄 正木 茂
木村 晃 中村 勝浩 千葉 克徳 柿崎 幸人
長尾 善弘 釣部 義之 鈴木 秀昭

シニア Dチームメンバー

監督 名雪 順一 監督代行兼主将 星野 一美

松波 陽一 岡崎 正夫 小池 辰男 鈴木 実 放生 博充
田中 誠 服部 要司 木村 清 和田 恵二

【優勝監督コメント ジュニアDチーム監督 田村 陽平】

今年一年をふり返り、今季は初めてのジュニア、シニアの「総合優勝」戦
今までの「リーグ優勝」だけではなく、総合力が必要だ。

そしてお互いの助人の協力も大切だ。親子チームのバランス、コミュニケーションなど非常に神経をつかった。また、初めての監督による「ドラフト」でのチームと全てが、初経験の1年でありました。ドラフトでは、「走・攻・守」どれをとってもベストな選択ができ、私が見たコメッツ12年の中で「最強チーム」と言っていいだろう。

これで「優勝」しないとプレッシャーが毎試合あったが、メンバーが実力を発揮してくれ、開幕「6連勝」のスタートダッシュに成功。「不動のオーダー」でエース柿崎投手（6勝）と関投手（2勝）で、ゲームを作り6人の3割打者を中心に盗塁（1～3位独占）と機動力を使い、12名中10人が3割3分以上の出塁率など、目標（失点3点以内で5得点の攻撃）通りできたこと。守備も三遊間、外野陣を中心に完璧に守り、初の正捕手、金田君が優秀捕手賞と大活躍。個人タイトルもチームで総ナメと、個性豊かなメンバーがチーム一丸で「優勝」できたことは、初監督として感無量です。試合1時間前のウォーミングアップでコンディショニングの成果と“勝ち”にこだわる熱いイズムが浸透していったと思います。最終戦は12名全員が一丸となって逆転勝ちの底力は素晴らしかった。胴上げしてもらい一生忘れられない試合でした。チームの皆さん、1年間ごくろうさま。そして感謝ありがとうございます。感謝。

【優勝監督コメント シニアDチーム監督代行 星野 一美】

2009年Dチームグループ優勝おめでとう！！

2009年のSDチームは、監督に名雪さんが就任し中盤まで努めましたが、名雪監督が転勤のため、監督代行として星野が引き継ぎました。

SDチームの特徴は、どちらかというと昔華々しく活躍され、最近は最近は体調の衰えを感じている人が多いチームでした。また、松波選手が終盤は体調不良でリタイヤされ、名雪監督が転勤で離脱されたため戦力的に低下しましたが、良い成績を納めることが出来たのは、メンバー全員がそれぞれの役割を自覚し、かつチームプレイへの貢献と勝利への執念を持っていたことが成績に反映されたと信じています。

今年のSDチームの成績は5勝6敗1分で最下位になりましたが、最終戦でシニアSCチームと戦い、勝てばシニアのトップに、負けると最下位になる戦いでした。結果は負けて最下位になりましたが、優勝も最下位も紙一重の差でした。

また、今年はシニアとジュニアのトータルによる成績で優勝が決まるという方式の中で、最終日に一つの勝星をかけて優勝を争う結果になり、最後まで緊迫した試合が出来ました。結果として我がDチームグループが優勝出来て大変嬉しく思っています。

SDチームのメンバーに心から敬意を表するとともに、JDチームの皆さんのご協力に感謝致します。また、SD, JDチームの皆様のご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。

2009 年を振り返って

事務局長 木川史弘 (60)

平成 21 年を振り返りましてご挨拶申し上げます。

本年は 4 月、5 月、6 月、7 月と毎月雨に悩まされました。途中運営委員のご努力でグランドの確保に努めましたが皆様のスケジュールを満たすことが出来ず、昨年同様 15 試合のリーグ戦が 12 試合に終わってしまいました。チーム成績、個人成績で予定を狂わされた方多かったですと存じます。運営委員会としてもお詫び申し上げます。今後予備のグランド手当てに工夫が必要かと存じます。

リーグ戦は大きな怪我人も出ず無事終了することができました。優勝された D グループチームの皆様おめでとうございます。1 年間ご苦労いただきました運営委員及び監督の皆様には心より感謝申し上げます。

本年は運営委員・専門委員の方々にご苦労いただき 35 周年記録誌を編集いたしました。コメッツの長い歴史を誇れる記録誌と存じます。じっくりご覧下さい。

リーグ戦以外にも会員相互間の交流を促進するためシニア、ジュニア連合軍が長野の全国生涯野球大会に参加いたしました。また対外試合を促進するため対外試合内規を作成しました。不完全な部分もありますが今後改善し皆様の対外試合を応援したいと存じます。

また、本年は還暦チームが活躍されました。東還連春季 K リーグでは 7 戰全勝優勝を達成、7 月の関還連大会出場、9 月の全還連大分大会出場と東京コメッツを外部にアピールしました。特に全還連大分大会参加ではコメッツの有志の皆さんによるカンパをいただき後押しをしていただきました。この席をお借りして御礼申し上げます。

来年度のリーグ編成につきましては、運営委員会・監督会で数回に渡り今年度の試合状況を精査、議論いたしました結果、来年は会員の意思を尊重したリーグ・チーム編成することいたしました。

最後に会員の皆様とそれを支えてくださるご家族のご健康をお祈り申し上げ挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。